

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3175207号
(U3175207)

(45) 発行日 平成24年4月26日 (2012. 4. 26)

(24) 登録日 平成24年4月4日 (2012. 4. 4)

(51) Int.Cl.

A 4 1 D 27/10 (2006.01)

F 1

A 4 1 D 27/10

D

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2012-721 (U2012-721)
(22) 出願日 平成24年2月13日 (2012. 2. 13)(73) 実用新案権者 595003381
尾崎商事株式会社
岡山県倉敷市児島田の口3丁目10番25号
(74) 代理人 100108855
弁理士 蔵田 昌俊
(74) 代理人 100159651
弁理士 高倉 成男
(74) 代理人 100091351
弁理士 河野 哲
(74) 代理人 100088683
弁理士 中村 誠
(74) 代理人 100109830
弁理士 福原 淑弘

最終頁に続く

(54) 【考案の名称】 袖付き衣服

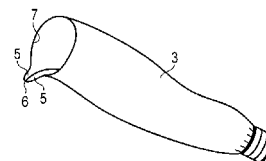
(57) 【要約】

【課題】腕に対する袖の動作性を高め、上挙時においても裾の吊り上がりを抑えて静立安定時と同様に良好な外観品位を保つことができるセーラー服などの袖付き衣服を提供する。

【解決手段】身頃の両側上部に袖を縫着してなる袖付き衣服において、袖3は一枚袖仕様であって、その袖3のアームホール7における袖脇底部分に、袖3の生地による舌片状の張出し部6が突出形成され、この張出し部6を含む袖3のアームホール7の縁を、身頃のアームホールの縁に沿わせながらその双方を互いに縫い合わせることで、前記張出し部6の生地たるみによる膨出部が形成され、この膨出部が身頃の脇の内側に凹んで入り込む状態に収納されている。

【選択図】 図3

図3



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

身頃の両側上部に袖を縫着してなる袖付き衣服において、

袖は一枚袖仕様であって、その袖のアームホールにおける袖脇底部分に、袖の生地による舌片状の張出し部が突出形成され、この張出し部を含む袖のアームホールの縁を、身頃のアームホールの縁に沿わせながらその双方を互いに縫い合わせることで、前記張出し部の生地のとるみによる膨出部が形成され、この膨出部が身頃の脇の内側に凹んで入り込む状態に収納されていることを特徴とする袖付き衣服。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

この考案は、女子中学生や女子高校生が通学用として着用するセーラー服などの袖付き衣服に関する。

【背景技術】

【0002】

セーラー服などの袖付き衣服は、例えば特開 2002-161422 公報（特許文献 1）に見られるように、身体の上半身を覆う身頃の両側上部に袖を縫着してなる。袖は、生地を筒状に縫合してなり、その袖脇側のアームホールが身頃のアームホールに縫合される。セーラー服の場合、袖は一枚の生地を筒状に縫合してなる一枚袖仕様のものが一般的である。袖のアームホールは、身頃のアームホールとほぼ同形状の寸法に仕上げられ、その袖のアームホールの周縁が身頃のアームホールの周縁に縫合される。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2002-161422 号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

このような袖付き衣服としてのセーラー服は、腕を下げた静立安定時には良好なシルエットの外観品位が得られるが、着衣者が腕を挙げる上挙の姿勢をとったとき、すなわち挙手したり、電車の吊り革に手を掛けたりしたときに、袖の動きに伴って身頃の裾がその袖側に吊り上がるように傾斜し、外観品位が損なわれてしまう。

30

【0005】

従来一般の袖付き衣服は、身頃のアームホールと袖のアームホールとがほぼ同形同寸法であって、静立安定時の姿勢を基準にして袖を身頃に縫着しているため、上挙の姿勢をとったときに身頃の裾の片側が吊り上がって傾く不体裁な型崩れが生じてしまう。

【0006】

特にセーラー服の場合、身頃の着丈が短く、このため上挙時に身頃の裾の片側が吊り上がって傾くと、その身頃の下側の着衣が露出し、より不体裁で見苦しい外観となってしまう。

40

【0007】

この考案はこのような課題に着目してなされたもので、その目的とするところは、腕に対する袖の動作性を高め、上挙時においても身頃の裾の吊り上がりを抑えて静立安定時と同様に良好な外観品位を保つことができる袖付き衣服を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

この考案は、身頃の両側上部に袖を縫着してなる袖付き衣服であって、袖は一枚袖仕様で、その袖のアームホールにおける袖脇底部分に、袖の生地による舌片状の張出し部を突出形成し、この張出し部を含む袖のアームホールの縁を、身頃のアームホールの縁に沿わせながらその双方を互いに縫い合わせることで、前記張出し部の生地のとるみによる膨出

50

部を形成し、この膨出部が身頃の脇の内側に凹んで入り込む状態に収納してなることを特徴としている。

【考案の効果】

【0009】

この考案の袖付き衣服によれば、着用者が腕を上挙げる動作をとったときに、袖の脇底部に生地たるみによる膨出部があるため、その膨出部のたるみのゆとりで、袖の動作に伴う身頃裾の吊り上がり量が軽減され、したがって腕の上げ下げによる身頃裾の傾きが従来の袖付き衣服に比べて少なくなり、これにより身頃の下側の着衣が露出しにくくなり、外観品位の低下を軽減することができる。

【0010】

袖の脇底部のゆとりの膨出部は、身頃の脇の内側に凹んで入り込むように収納されており、したがって腕を下げた静立安定時には、膨出部が身頃の脇の内側に隠れて外部に露出せず、したがって静立安定時の外観品位も良好に保つことができる。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】この考案の一実施形態に係る袖付き衣服としてのセーラー服を示す正面図。

【図2】そのセーラー服の袖のパターンを示す平面図。

【図3】そのセーラー服の袖を示す斜視図。

【図4】そのセーラー服の袖のアームホールと身頃のアームホールを示す正面図。

【図5】そのセーラー服の袖の縫着部を示す正面図。

【考案を実施するための形態】

【0012】

以下、この考案の実施の形態について図面を参照して説明する。

【0013】

図1には、袖付き衣服としてのセーラー服を示してあり、このセーラー服は身体の上半身を覆う身頃1と、この身頃1の中央上部に縫着されたセーラーカラー2と、身頃1の両側上部に縫着された袖3とからなる。

【0014】

袖3は一枚の生地を筒状に縫合してなる一枚袖仕様のもので、そのパターンを図2に示してある。袖3の生地3aの袖脇側縁部には、滑らかな山形状に突出する突出部4が裁断形成されていると共に、その突出部4の両側の山形の裾部分に、その裾からやや突出部4の突出側に盛り上がる隆起部5が連なって裁断形成されている。

【0015】

このパターンの生地3aの両側縁同士を縫合することで、図3及び図4(A)に示すように筒状の袖3が仕上げられる。この袖3においては、図4(A)に示すように、袖脇側のアームホール7が上下に長い楕円形となるが、前記隆起部5の存在によりその楕円形の下側部分、つまり袖脇底部分に隆起部5の生地による舌片状の張出し部6が突出形成される。

【0016】

一方、身頃1の両側上部には、図4(B)に示すように、上下に長い楕円形のアームホール8が形成されている。そしてこの身頃1のアームホール8に袖3のアームホール7を縫合することで袖付き衣服が仕上げられる。

【0017】

身頃1のアームホール8に袖3のアームホール7を縫合するときには、身頃1のアームホール8の縁に袖3のアームホール7の縁を沿わせながらその双方を互いに縫い合わせるわけであるが、袖3のアームホール7の一部には舌片状の張出し部6が突出しているから、その張出し部6の縁の部分を身頃1のアームホール8の縁の一部に沿わせて縫い合わせる。

【0018】

張出し部6の縁を身頃1のアームホール8に縫合することで、その張出し部6の生地

10

20

30

40

50

たるみが生じる。すなわち、図 5 に示すように、袖 3 の脇底部に張出し部 6 の生地 of たるみによる袋状の膨出部 9 が形成される。この袋状の膨出部 9 は、身頃 1 の脇の内側に凹んで入り込むように収納される。

【0019】

このような縫製工程で身頃 1 の上部両側に袖 3 が縫合され、セーラー服が仕上げられる。このようなセーラー服においては、着用者が腕を上 to 挙げる動作をとったときに、袖 3 の脇底部に生地 of たるみによる膨出部 9 があるため、その膨出部 9 のたるみのゆとりで、袖 3 の動作に伴う身頃裾の吊り上がり量が軽減され、したがって腕の上げ下げによる身頃裾の傾きが従来の袖付き衣服に比べて少なくなり、これにより身頃 1 の下側の着衣が露出しにくくなり、外観品位の低下を軽減することができる。

10

【0020】

また、本実施形態の袖 3 の脇底部には膨出部 9 によるゆとりがあるため、腕を挙げるときに脇下に突っ張り感や窮屈感が生じることがなく、運動機能性に富む快適な着用感が得られる。

【0021】

袖 3 の脇底部のゆとりの膨出部 9 は、身頃 1 の脇の内側に凹んで入り込むように収納されており、したがって腕を下げた静立安定時には、膨出部 9 が身頃 1 の脇の内側に隠れ外部に露出せず、したがって静立安定時の外観品位も良好に保つことができる。

【0022】

なお、この考案は、セーラー服に適用する場合に限らず、ジャケット類などの袖付き衣服においても適用することができる。

20

【符号の説明】

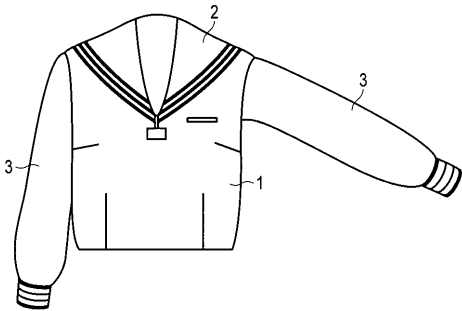
【0023】

- 1 … 身頃
- 2 … セーラーカラー
- 3 … 袖
- 4 … 突出部
- 5 … 隆起部
- 6 … 張出し部
- 7 … 袖のアームホール
- 8 … 身頃のアームホール
- 9 … 膨出部

30

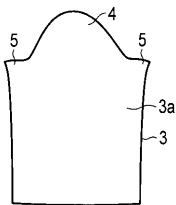
【図 1】

図 1



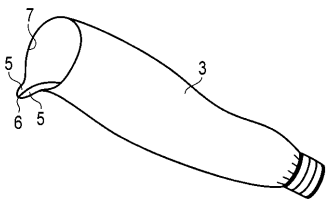
【図 2】

図 2



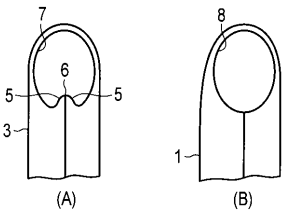
【図 3】

図 3



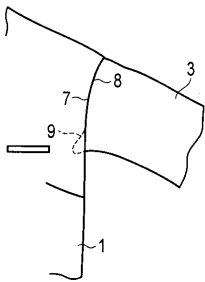
【図 4】

図 4



【図 5】

図 5



フロントページの続き

- (74)代理人 100075672
弁理士 峰 隆司
- (74)代理人 100095441
弁理士 白根 俊郎
- (74)代理人 100084618
弁理士 村松 貞男
- (74)代理人 100103034
弁理士 野河 信久
- (74)代理人 100119976
弁理士 幸長 保次郎
- (74)代理人 100153051
弁理士 河野 直樹
- (74)代理人 100140176
弁理士 砂川 克
- (74)代理人 100158805
弁理士 井関 守三
- (74)代理人 100124394
弁理士 佐藤 立志
- (74)代理人 100112807
弁理士 岡田 貴志
- (74)代理人 100111073
弁理士 堀内 美保子
- (74)代理人 100134290
弁理士 竹内 将訓
- (72)考案者 尾崎 茂

岡山県倉敷市児島田の口3丁目10番25号 尾崎商事株式会社内